

ユ ニ ッ ト 名	島根大学生生活協同組合住まい事業部
代 表 者	島根大学生生活協同組合住まい事業部 石原大輔
所属人数	6名
達成に資するSDGs目標	12 つくる責任つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう
活 動 概 要	本企画は、島根大学を卒業される学生の方々に、不要となった家具・家電を回収し、島根大学に入学する新入生にお渡しする取り組みです。 卒業生にとっては、これまで共に過ごしてきた家具・家電を「捨てるにはもったいない」と感じることも多いかと思います。本企画を通じてそれらを回収することで、処分費用の削減につながるだけでなく、新入生への想いを形として受け渡すことができます。 また、新入生にとっては、初めての一人暮らしに必要なものを知るきっかけとなり、先輩方が大切に使用してきた家具・家電を受け継ぐことで、物を大切にすることや感謝の気持ちを育むことができると考えています。 SDGsの観点からも、処分に伴う環境負荷を抑えるだけでなく、物を長く使い続けるという視点から、長期的な環境負荷の軽減にもつながる取り組みです。
成果物の公表予定、社会への波及効果	この活動は以下のSDGsの達成に貢献しています。 目標12「つくる責任 つかう責任」 現代社会では、大量生産・大量消費によって膨大な資源が消費され、同時に多くの物が短時間で廃棄されています。特に家具や家電のような耐久消費財は、本来であれば長く使えるものであるにもかかわらず、引っ越しや卒業といったライフイベントを機に処分されてしまうケースもあります。そこで本企画では、卒業生が不要となった家具・家電を「廃棄」ではなく「お渡し」という形で再利用することで、限りある資源の有効活用につながると考えています。まだ使用可能な物を必要とする人へとつなぐことは、「物を作る側の責任」と「使う側の責任」の双方に目を向けた行動であり、持続可能な消費と生産の形を体現する取り組みです。 目標15「陸の豊かさも守ろう」 家具や家電を作るときだけでなく、処分するときも必ず自然の資源に大きな影響を与えています。そのため、本企画では、そうした家具や家電を廃棄するのではなく、次に必要とする新入生に譲渡することで、資源を循環させ、使用期間を延ばすことができます。この「もう一度使う」という選択は、新たな製品の製造を少しでも減らすことにつながり、ひいては自然の生態系の保全にも貢献します。
活 動 報 告 書	本活動では、卒業生から不要となった家具・家電を回収し、新入生へ再利用品として提供することを目的として実施した。第1回収は2月16日から2月20日までの5日間行い、累計80個の家具・家電を回収した。続いて、第2回収を3月1日から3月5日までの5日間実施し、累計71個を回収した。2回の回収期間を通して合計151個の家具・家電が集まり、44名の協力者から提供を受けることができた。 新入生への受け渡しについてはまだ実施期間外であるが、昨年度までの実績では回収した家具・家電をすべて新入生へ提供することができているため、今年度も、新入生へ受け渡しできるよう取り組んでいく予定である。 また、回収時に実施したアンケートでは、約7割の卒業生が入学時に本活動(Re-USE市)を利用していたことが明らかとなった。これは、本活動によって「利用した人が次の世代へ提供する」というリユースの循環が形成されていると考える。 今回の活動により151個の家具・家電が廃棄されることなく再利用される可能性が生まれた。これは廃棄物の削減と資源の有効活用につながり、持続可能な消費と生産を目指すSDGs目標12「つくる責任 つかう責任」の達成に寄与する取り組みであると考えている。また、新たな家具・家電の生産量の抑制や廃棄物処理の減少は、資源採取や環境負荷の低減にもつながるため、森林資源や生態系の保全を目指す目標15「陸の豊かさも守ろう」にも間接的に貢献すると考えられる。このように、本活動は資源循環を促進するとともに、環境負荷の低減を通して持続可能な社会の実現に寄与するものである。 なお、反省点として引っ越しをする方が多い2月末から回収を実施することでより多くの家具・家電を回収することができたのではないかと考える。そのため、来年度は実施機関を調整する必要があると考えた。